

令和 7 年度個別学力試験問題

小 論 文

(教育学部特別支援教育コース)

解答時間 60 分

配 点 100 点

注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された場所に横書きで記入してください。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

問題

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

マジックショーでは布の下や箱の中などに隠した物が消失するといった事態を見せられることがしばしばあります。こうした事態に私たちが驚くのは、「物は視界から消えても存在し続ける」という対象の永続性法則を有するからです。対象の永続性は物の世界についての理解の基盤となるという意味で、最も基礎的な法則であるといわれています。この理解がなかったら、私たちは大変混乱した世界に住むことになるでしょう。

スイスの発達心理学者であったピアジェ (J. Piaget) の研究以降、長らく、この対象の永続性法則の理解は0歳代後半にならないと難しいと考えられてきました。乳児がお座りして楽しくおもちゃで遊んでいるときに、そのおもちゃをそっと取り上げて布の下に隠したらどうなるでしょうか。9ヶ月以前の乳児は、まるでそれがなくなってしまったかのように振る舞い、おもちゃを探すということをしません。

またおもちゃを探すことができるようになった赤ちゃんでも、しばらく A not B エラーという間違いを起こすことが知られています。

ある9ヶ月の子どもは、おもちゃを布の下に隠すと即座に取り出すことができました。これを数回繰り返したあと、その子の目の前でおもちゃを別の布の下に隠してみました。すると、相変わらず以前おもちゃを見つけた布の下を探すのです。これが A not B エラーです。0歳代の子どもが身近にいる方はぜひこの課題を試してみてください。ピアジェは、自身の3人の子どもを綿密に観察するなかで、こうした事実に基づき、対象の永続性法則が理解され始めるのは0歳代後半からだと主張したのです。⁽¹⁾

しかし、隠されたものを探すという行動をとること自体が、乳児にとってそれほど容易なことではないかもしれません。見えなくなっても存在することをわかってはいても、探すという探索行動をとることができないだけなのかもしれません。⁽²⁾

探索行動ではなく、注視を指標とした最近の乳児研究では、ピアジェの主張よりもっと早くから対象の永続性法則の理解が可能であることが示されています。

(出典：外山紀子・中島伸子、『乳幼児は世界をどう理解しているのか』、ポプラ社、2023年より)

問 1 下線部(1)について、ピアジェはどのような事実から、このような主張をしたのですか。
200 字以内(句読点を含む。英数字は 1 マス 1 文字として記述すること。)で説明しなさい。

問 2 下線部(2)について、「かもしれません」とあることから、子どもの世界を理解することの難しさがうかがえます。子どもの世界を理解することの難しさをふまえ、教育者にはどのようなことが求められるかについて、あなた自身の考えを 400 字以内(句読点を含む。英数字は 1 マス 1 文字として記述すること。)で述べなさい。

